

序論)宣教のスタートダッシュとしてのペンテコステ

- ペンテコステ＝聖霊様が教会に与えられた日
- 徒競走におけるスタートダッシュの重要性 → 0.5 秒で 3m 違う
- 教会の宣教も聖霊による「スタートの号令」から始まった
- 本日は「いつ・どのように・何をした」の観点からペンテコステの出来事を確認する

1)いつ → 五旬節、皆が集まっていた時に(2:1)

- 「五旬節(シャブオット)」は過越から 50 日後の収穫感謝祭(レビ記 23:15-16)
- ユダヤ人たちには律法授与の記念日としても理解されていた(出エジプト 19:1 との関連)
- 旧約の律法→石板、ペンテコステ→心に刻まれた律法(Ⅱコリント 3:3)
- ペンテコステは、宣教という霊的な収穫の開始を告げる記念日であり、聖霊という心に刻む律法が与えられた日

2)どのように → 聖霊に満たされて(2:2-4)

- 「家」は集まっていた人数やその後の 3000 人の洗礼を考えるとおそらくエルサレム神殿
- 「激しい風のような響き」→ ルーアハ(ヘブル語)・プノエー(ギリシャ語)＝霊・息・いのち
- 旧約の例:創世記 2:7、エゼキエル 37:9(息によって生き返る)
- 風(息)は聖霊によっていのちが与えられる象徴
- 「炎のような舌」→ 神様の臨在と力、さらに「舌(グローツサ)」＝ことば・言語
- だから、教会はいのちを与える聖霊に満たされ、他国のことばで語るようにされた

3)何をした → 御霊が語らせるままに語った(2:4,11)

- 「神の大きなみわざ」を語る(2:11)
- 聖霊様の働き:
 - 神様のことを教える
 - キリストのことばを思い起こさせる(ヨハネ 14:26)
 - ことばの壁を超えて語らせる

- このとき各地（パルティア～アラビア～ローマ）{9-11 節}から敬虔な人々がエルサレムに集まっていた
- 聖霊様は、言語や文化のような壁を超えて福音を伝える力を与えてくださる

結論)今も響く「聖霊による号令」

- 聖霊降臨は「不思議な現象が起こった日」ではなく、**宣教の開始の号令**がなされた日
- 聖霊様は：
 - いのちを与える方
 - 【主】の臨在を示す方
 - 証しのことばを与える方
 - 伝道の障害を乗り越える力を与えてくださるお方
- 私たちもその流れの中に生かされている
- 恐れずに祈ろう：「聖霊様、私を満たし、語るべきことばを与えてください」

ルカ 11:9,13

- 【主】は、求める者に聖霊様を与えてくださる

★応答の時

【主】はみなさんを

「どのような働きに導かれたでしょうか」

「どんな励ましを与えてくださったでしょうか」

「みなさんが伝道するための壁はなんでしょうか」